

### 3. 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務

#### ネットワーク型支援体制による環境整備支援

- ・ 地域での地域循環共生圏に通じる担い手（団体等）について把握し、地域循環共生圏に関する情報を提供するほか、関係性を構築する。
- ・ 地域ニーズをふまえた専門的・面的支援を行う。

#### (1) 地域循環共生圏プラットフォームの環境整備支援等業務

##### ●業務目標

九州地方における地域循環共生圏の創造（構築・推進）に向け、プラットフォーム活動団体（PF 活動団体）と連携し、モデル活動を展開。

業務の実施に当たっては、九州地方環境事務所地域循環共生圏構想推進室、（公財）地方経済総合研究所（肥後銀行シンクタンク）とともに地方支援事務局連携し、専門的知見を得ながら取り組みを推進する。

#### ア、環境整備支援の概要

九州地方環境事務所、公益財団法人地方経済総合研究所とともに地方支援事務局を構成し、地域ニーズをふまえた支援を行った。また具体的な環境整備支援においては、プラットフォーム活動団体（以下、PF 活動団体）へのヒアリングを行い、環境整備のプロセスに係る支援（構想策定・事業計画策定・ステークホルダーの組織化の各過程に応じた環境整備支援）のための支援計画を策定の上、取組んだ。

##### 九州・沖縄地方における PF 活動団体

	PF 活動団体名	活動地域	備考
1	田主丸・未来創造会議	福岡県久留米市	新規
2	福岡筑後プラスチックリサイクル ループ推進協議会	大木町、みやま市、柳川 市、筑後市、大川市	新規
3	みやざき SDGs プラットフォーム	宮崎県全域	新規
4	北九州環境ビジネス推進会 (KICS)	福岡県北九州市	継続
5	一般社団法人 MIT	長崎県対馬市	継続
6	鹿島市ラムサール条約推進協議会	佐賀県鹿島市	事業化支援

##### 沖縄奄美自然環境事務所管内の PF 活動団体

1	西表島農業青年クラブ	沖縄県 西表島	新規
2	徳之島地区自然保護協議会	鹿児島県大島郡徳之島一 円	事業化支援
3	宮古島市	沖縄県宮古島市	事業化支援

## 「環境整備」の考え方

地域循環共生圏の創造に向けて取り組むPF活動団体が行う地域人材（キーパーソン）の発掘、地域の核となるステークホルダー（以下：SH）の組織化、事業計画策定に向けた構想の具体化を総称する主体的な活動。

## 「環境整備支援」の展開

PF活動団体が取り組む環境整備の円滑な推進に向けた中間支援活動を、環境整備支援と位置づけ、広域的な連携づくりを促進させた。

その一環として、地域SHを交えた意見交換会の開催を支援し、PF活動団体が策定する地域循環共生圏構築に向けた事業計画をブラッシュアップし、活動内容に関する専門家による助言など必要な支援・情報提供を行った。

沖縄奄美自然環境事務所所管のPF活動団体については、沖縄奄美支援事務所と請負業者（いであ株式会社沖縄支社）による支援事務局を組織し、環境整備支援が行われた。沖縄奄美支援事務局とは、地域間連携を意識し、随時情報交換を行った。

全国事業としてのプラットフォーム形成に向けた設計・スケジュールを活用しながら、九州地方でのネットワークに向けた企画支援を行い、独自のノウハウ獲得に努めた。

また、全国事務局が開催するアドバイザー委員会、作業部会等において環境整備支援のノウハウを共有し、活動や支援の質的向上をはかった。



## イ、ヒアリングとキックオフ

新規団体においては、本事業の説明やスケジュール、提出書類などのインプットと同時に、PF活動団体として、どのような活動目的・計画であるのかをヒアリングした。

なお、ヒアリングの実施にあたっては、現地訪問及び、コロナ禍により現地訪問不可のPFにおいては、オンラインツールを活用するなど、機動的な対応を行った。

継続団体についても、新年度に向けての活動状況把握のために、ヒアリングを行った。

### ①ヒアリングの実施

新規団体に本事業の方針・計画のインプットを行うと同時に、継続団体に現状把握と今後の方針を確認し、支援計画に反映した。

行事名	地域循環共生圏 PF 事業活動団体ヒアリング
開催日等 (場所)	令和3年4月21日(水) 北九州環境ビジネス推進会(ウェルクリエイト) 4月27日(火) 田主丸・未来創造会議(久留米市田主丸総合支所) 5月6日(木) 一般社団法人 MIT(オンライン) 5月11日(火) みやざきSDGsプラットフォーム(オンライン) 5月11日(火) 福岡筑後PRL推進協議会(オンライン) 開催形式: 団体により対応(対面 or オンライン) 出席者: PF 活動団体担当者、九州地方環境事務所、EPO九州
目的	①事業の目的やゴール、進め方、登場人物と役割分担と共有 ②今年度目標と達成するための手段の具体化(5W2Hの把握) ③共生圏を構築する上での、現状認識している課題やボトルネックの整理整理 ④事務所・EPOによる環境整備支援のポイント抽出、具体的支援ニーズの把握
概要	九州地方支援事務局より、今年度の地域循環共生圏プラットフォーム事業の概要とスケジュールの説明を行った。 PF 活動団体から、今年度の主な取り組み、目指すべきゴールイメージ、ボトルネックなどの共有、質疑応答などが説明された  PF 活動団体の現状や課題を聴くことができ、今後の支援策について具体的な方向性を共有した。 また、ヒアリングをふまえ、全国共通のフォーマットをもとに、各PF 活動団体の取組に応じた観点を整理し、九州地方支援事務局としての企画を盛り込んだ支援計画を策定した。 あわせて、全国事務局が開催するキックオフ情報交換会開催に向けて、PF 活動団体の発表資料作成に助言等を行い、側面支援した。
写真	

## ②情報交換会(キックオフミーティング)への出席及び開催支援

全国のPF 活動団体の活動内容の把握、連携先の発掘、九州地方のPF 活動団体の情報交換が促進された。同時にコミュニケーションタイムのファシリテートを、地域状況を把握したEPOが担当することで、地方の団体同士の交流が進んだ。

行事名	情報交換会(キックオフミーティング)
開催日等 (場所)	令和3年6月1日(火) 13:00-16:30 PF 事業キックオフミーティング(オンライン) 6月2日(水) 9:30-16:30 PF 事業キックオフミーティング(オンライン) コミュニケーションタイムファシリテーター 開催形式: オンライン 出席者: 環境整備活動団体28団体、 事業化支援団体3団体(各日1団体事例発表)

	環境省（環境計画課、民間活動支援室、地方環境事務所） EPO、GEOC
目的	環境省が地域循環共生圏を進める上で本事業において構想するビジョン、方向性を共有するとともに、今年度のPF活動団体の取組内容を発表し、地域内の交流を促すとともに、地域を超えた課題・テーマでの交流も目的とする。
概要	<p>&lt;次第&gt;</p> <p>6月1日（火）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域循環共生圏プラットフォーム事業説明</li> <li>・有識者による講演 青森大学社会学部 准教授 石井重成氏 演題「地域を変える学びの重要性」</li> <li>・PF活動団体（環境整備2年目）8団体の取組内容の発表・質疑応答</li> <li>・地方ブロック別コミュニケーションタイム①</li> </ul> <p>6月2日（水）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PF活動団体（環境整備1年目・事業化支援）28団体の取組内容の発表・質疑応答</li> <li>・地方ブロック別コミュニケーションタイム②</li> </ul> <p>環境計画課ならびに全国事務局による事業説明、有識者による講演等をとおして、PF活動団体の取組前提となる方向性を共有した。</p> <p>取組内容発表では、九州各地域の取組についての発表を行い、他地域と取組みを共有した。</p> <p>コミュニケーションタイムでは、PF活動団体同士の初顔合わせの場として、相互交流を実施、地方EPOがファシリテーターとして円滑な会議進行を行った。</p>
写真	

## ウ、ブロックネットワーク形成の取組

### ①環境展示会「エコテクノ2022」ブース出展・パネル展示

地域循環共生圏政策の啓発の場となり、プラットフォーム構築事業を発信した。

行事名	環境展示会「エコテクノ2022」ブース出展・パネル展示
目的	EPO九州・ESD活動支援センターの活動紹介と共に、地域循環共生圏政策の啓と、九州地方のPF活動団体の活動を紹介するため、西日本最大規模の環境展示会において、ブース出展・パネル展示行う。また、環境関連団体との情報交換、連携強化を行う。

開催日等	<p>日時：令和3年6月30日（火）-7月2日（木） 場所：西日本総合展示場（北九州市）</p> <p>エコテクノ展総入場者数： 6月30日（水） 3,118人 7月1日（木） 2,977人 7月2日（金） 2,473人 合計 8,568人</p>
出展概要	<p>1. パネル展示 2. 地域循環共生圏事業の啓発活動（ブース来客対応） 3. 北九州環境ビジネス推進会（KICS）他、環境関連団体との連携強化</p>
写真	

## ②九州地方プラットフォーム連絡会の開催

新規団体には活動のヒントを得られる、継続団体には活動の成果を整理する場となったと同時に、九州地方 PF 活動団体の交流・連携が深まった。

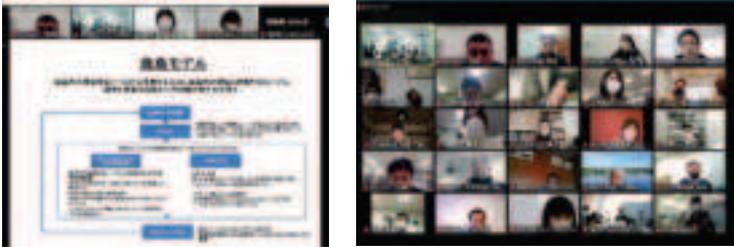
行事名	九州地方プラットフォーム連絡会
開催日等	<p>日時：令和3年9月2日（木）13:20-16:30 場所：オンライン 出席者：オンライン参加者 23名（団体 12名、事務局 11名） 田主丸・未来創造会議 福岡筑後プラスチックリサイクルループ推進協議会 みやざきSDGsプラットフォーム 北九州環境ビジネス推進会 一般社団法人 MIT 鹿島市ラムサール条約推進協議会 全国事務局（GEOC・いであ（株）・アドバイザー委員島岡氏） 支援事務局（九州地方環境事務所・地方経済総合研究所・EPO九州）</p>
目的	九州地方 PF 活動団体が一堂に会し、情報交換と交流によるネットワークの構築と事業への相互参照を促進する。特に新規団体の取組内容、課題について、継続団体・事業化支援団体からの助言を基に活動のヒントにする意見交換を実施する。
概要	<p>九州地方の PF 活動団体に参加いただき、連携を深めた。 新規団体に、活動内容について発表いただき、継続団体・事業化支援団体からアドバイスをもらうという形式にして、情報交換の時間を重点として設定し、アドバイスだけでなく、新規団体からの質疑に答えること。</p> <p>&lt;次第&gt; 1. （公財）地方経済総合研究所からの情報提供 「熊本県山都町の持続可能な地域を目指して」</p>

	<p>2. 新規団体（田主丸、みやざき、福岡筑後）の活動内容発表</p> <p>3. 新規団体に対して、継続・事業化支援団体からのアドバイス</p> <p>4. アドバイザリー委員から、活動団体へのアドバイス</p>
アンケート結果等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アドバイザリー委員の島岡氏からの助言（ふるさと納税や文化遺産との掛け合わせなど）が非常に参考になった。（田主丸・未来創造会議）</li> <li>・MIT 吉野氏の団体を何のために立ち上げるかという目的やゴールをしっかりと共有して活動しないと団体自体が形骸化していくというコメントが響いた。（福岡筑後プラスチックリサイクルループ推進協議会）</li> <li>・山都町の SDGs 未来都市への道のりなど参考になった。（みやざき SDGs プラットフォーム）</li> <li>・非常に有意義な情報交換と運営だった。（北九州環境ビジネス推進会）</li> </ul>
写真	

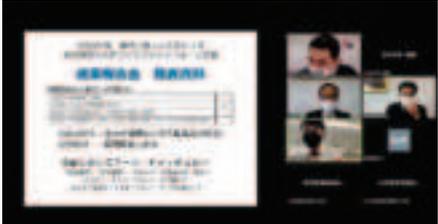
## 工、中間報告・成果報告

### ①中間報告会への出席及び開催支援

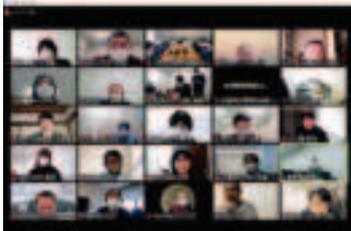
催事名	中間報告会
目的	<p>環境整備団体の進捗（「事業を通じての変化」と「事業を通じての課題と今後の取組の方向性」）を共有することで、PF 活動団体のオーナーシップを高めると共に、事務局としての支援方法の改善の機会とする。</p> <p>また、今年度事業化支援に取り組んでいる団体から、取組の紹介と地域プラットフォーム構築の過程（＝環境整備）で苦労したこと、工夫したこと等を発表して頂くことで、今年度環境整備に取り組む団体へ PF 事業に長期間取組んでいる団体のノウハウや知見が共有され、事業化支援の内容イメージを得る。</p> <p>また、ブレイクアウトルームでの意見交換では、「気づきの共有と活動のブラッシュアップ」を目的に、事業化支援団体の発表やそれぞれの中間報告内容をもとにグループで意見交換をすることで、団体間の交流を深める。</p>
開催日時等	<p>日時：令和3年12月3日（金）13:00-16:00</p> <p>日時：令和3年12月6日（月）13:00-16:00</p> <p>日時：令和3年12月7日（火）13:00-16:00</p> <p>開催形態：オンライン</p> <p>出席者：環境整備活動団体 28 団体、 事業化支援団体 3 団体（各日 1 団件事例発表） 環境省（環境計画課、民間活動支援室、地方環境事務所） EPO、GEOC</p>
概要	<p>&lt;次第&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事業化支援団体によるプレゼンテーション 「地域プラットフォーム構築過程の気づきと反省点」</li> <li>2. 環境整備活動団体によるプレゼンテーション</li> </ol>

	<p>「事業を通じた変化」「課題と今後の取組の方向性」</p> <p>3. ブレイクアウトルームを使った意見交換 「気づきの共有とブラッシュアップ」 進行：地方 EPO</p>
アンケート 回答より	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業化支援団体の話題提供、環境整備団体の中間報告、ブレイクアウトルームでの意見交換、発表時の課題について即参考となる事例を紹介いただいた。（みやざき SDGs プラットフォーム）</li> <li>・グループ分けが難しいが、生態系保全関連の団体や林業の取り組みをしている団体とも意見交換をしてみたいと思った。（MIT）</li> </ul>
開催状況の 写真等	

## ②成果報告会に向けてのオンライン事前打ち合わせ

行事名	成果共有会に向けた事前相談会
開催日等	<p>日時：令和4年</p> <p>月3日（木）10:30-みやざき SDGs プラットフォーム（オンライン）</p> <p>2月3日（木）13:00-一般社団法人 MIT（オンライン）</p> <p>2月3日（木）14:00-福岡筑後 PRL 推進協議会（オンライン）</p> <p>2月4日（金）10:30-北九州環境ビジネス推進会（オンライン）</p> <p>2月8日（火）10:30-田主丸・未来創造会議（オンライン）</p> <p>開催形式：オンライン出席者：PF 活動団体担当者、九州地方環境事務所、EPO 九州</p>
目的	成果報告会前に PF 活動団体と九州地方支援事務局との意見交換の場を設けることで、プラットフォームの環境整備活動の一層の充実（成果物のブラッシュアップ）を図る。
概要	<p>成果物（地域版マンガラ・発表資料・事業のタネシート・ステークホルダーリスト・最終報告書・目標シート）の確認、活動内容の進捗確認、資料説明に対する質疑応答を行った。</p> <p>支援事務局と PF 活動団体が、成果物案を事前に共有し、活動内容の進捗確認と、発表資料に盛り込むべき点等について助言を行い、各資料のブラッシュアップを実施した。</p>
開催状況の 写真等	

### ③成果報告会への出席及び開催支援

催事名	成果報告会
目的	環境整備団体の取組内容の発表を通して、地域プラットフォームでの活動進捗状況を確認し、他地域、他主体（企業等）との連携を図る。 また、コミュニケーションタイムでは、たくさんの活動団体との対話の機会の創出を目的とする。
開催日時等	日時：令和4年3月8日（火）10:00-17:00 開催形態：オンライン 出席者：環境整備活動団体28団体、 事業化支援団体3団体（各日1団体事例発表） 環境省（環境計画課、民間活動支援室、地方環境事務所） EPO、GEOC
概要	各PF活動団体報告において、課題内容の近い地域の取組みについて、各PF活動団体が情報共有を行った。 ネットワーキングイベントでは、九州地方のPF活動団体の年度の振り返りを行い、今後の協力体制の継続を確認した。  <次第> 1. 環境整備団体のプレゼンテーション 「1年間もしくは2年間の活動を通して」 2. 事業化支援団体のプレゼンテーション 「事業化支援の活動を通して」 3. コミュニケーションタイム ・他地域との意見交換
開催状況の写真等	 

### オ、PF 活動団体別環境整備支援

#### ①【田主丸・未来創造会議】（新規）

##### 概要

PF 活動団体の特徴	久留米市の旧田主丸町を中心とした地域であり、久留米市の田主丸総合支所が事務局となり、以下の社会課題の解決を目指している。  ①カラタチの伐採された部分を野焼きせざるを得ないため、二酸化炭素排出や煙害など環境問題。 ②田主丸財産区で平成23年度から販売している「かっぱの森」ークレジット」の地域での認知度が低い。 ③自然や農業生活に根差した神事や伝統行事が多く残るが、高齢化等によってその存続が危ぶまれる。
------------	--

環境整備 支援方針	<p>田主丸未来創造会議を基軸とした協働プラットフォームを目指しており、精力的に関係者を巻き込んでいる。</p> <p>田主丸地域を主軸とするビジョン、事業展開であるが、さらに広域的に久留米市（旧田主丸町を含む広域合併）の地域政策への波及や他地区との連携についても、中期的に視野に入れてもらいたい。同会議だからこそできる関係構築、事業展開など強みを際立たせる方向性について助言等を行う。</p>
--------------	---

現地訪問等

概要	<p>重点課題である伐採カラタチの有効活用の状況把握のため、カラタチの伐採作業（4/15）、苗木植え付け作業（4/27）も現地視察し、重点課題を認識した。また、意見交換会に向けた方向性の絞り込みや会場の下見、SHでもあり、広報誌によって本事業の取組を紹介するクルメスタイルとの打合せ、フォーラム開催の打合せなど、綿密に打合せを重ねることで、信頼関係の構築と、事業方向性の整理を行った。</p>
写真等	<div style="display: flex; flex-wrap: wrap; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>カラタチの伐採作業</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>柑橘苗木の植え付け作業</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>意見交換会に向けた打合せ</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>意見交換会会場下見</p> </div> </div>

意見交換会

催事名	田主丸・未来創造会議意見交換会
目的	PF 活動団体と地域で協働するステークホルダーが集い、多様な視点による活発な議論を行う。
開催日時等	<p>日時：令和3年10月8日（金）13:30-16:00</p> <p>会場：久留米市田主丸総合支所会議室</p> <p>開催形態：対面+オンライン</p>
概要	<p>出席者人数：46名（会場参加者40名、オンライン参加者6名）</p> <p>コアメンバーに対して、地域循環共生圏の政策説明をする機会を設けたことで、本事業に関して関係者の理解が深まった。</p> <p>また、久留米大学准教授藤谷氏の基調講演から、環境保全に市民レベルで取り組む際の視点の話が聴け、プラットフォームづくりに大切な部分を確認した。</p>

	<p>浮羽工業高校の生徒の発表では、実際に映像の専門家の授業で取り組んだ地域に伝わる「かっぱ伝説」に基づいたPR動画の上映もあり、感想では「自分たちの住んでるまちのことを、あまり知らなかった。今回の動画作成に係る取材で、より地域のことを知れた。」など、地域の担い手育成の観点からも有意義な取組であった。意見交換では、「カラタチ生産者」「農泊プランナー」「市職員」「緑化センター」などそれぞれの専門家が集い、活発な意見交換が行われた。</p> <p>&lt;次第&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 主旨説明・地域循環共生圏づくりについて 九州地方環境事務所 地域循環共生圏構想推進室 豊原 悠作 氏</li> <li>2. 基調講演 「市民レベルの環境保全関与」 久留米大学 経済学部 文化経済学科 准教授 藤谷 岳 氏</li> <li>3. 若者視点で捉えた田主丸の魅力（動画紹介） 福岡県立浮羽工業高等学校 環境デザイン科</li> <li>4. 意見・感想の共有</li> <li>5. 意見交換</li> </ol>
<p>開催状況の 写真等</p>	
<p>団体との コンタクト</p>	<p>令和3年</p> <p>4月15日（木） 田主丸野焼き見学（田主丸カラタチ生産畑）</p> <p>4月27日（火） ヒアリング・カラタチ接ぎ木見学（田主丸カラタチ生産畑）</p> <p>5月20日（木） 田主丸未来創造会議オブザーブ参加（オンライン）</p> <p>8月17日（火） 田主丸フォーラム打合せ（クルメスタイル会議室）</p> <p>9月17日（金） 田主丸意見交換会打合せ（田主丸総合支所会議室）</p> <p>10月8日（金） 田主丸・未来創造会議意見交換会（田主丸総合支所会議室）</p> <p>令和4年</p> <p>2月8日（火） 成果報告会に向けた打合せ（オンライン）</p> <p>3月2日（水） 環境省Jクレジットヒアリングオブザーブ参加（オンライン）</p>

## ②【福岡筑後プラスチックリサイクルループ推進協議会】（新規）

### 概要

<p>PF活動 団体の特徴</p>	<p>令和3年度環境省グッドライフアワードを受賞した環境先進自治体の大木町を中心に、周辺自治体（みやま市・柳川市・筑後市・大川市）及び企業、学識経験者からなる協議会で、高品質プラスチック循環を目指している。</p>
<p>環境整備 支援方針</p>	<p>5市町を交えた組織体の実態としては、今からスタートラインという状況。効率的な広域回収の仕組みの「福岡筑後モデル」を福岡県全体が採用している状態を目指すためには、まずは、5市町間の合意形成と意識間格差を埋める必要がある。担当者だけではなく、地域住民の協力が不可欠である。</p> <p>そのために住民説明会などを根気強く開催する事務局や自治体側の覚悟も必要。その認識確認や具体的な事業計画についての助言を行う。</p>

現地訪問等

<p>概要</p>	<p>事務局である、大木町まちづくり課の担当と打合せを行い、組織運営体制についてアドバイスと共に、オンライン会議開催支援なども行い、軌道修正に努めた。          また、協議会の幹事会に参加することで、コアメンバーと、本事業の目的、協議会の達成目標を共有した。          環境自治体会議にも同席し、本事業の目的を説明した、大木町以外の4市（みやま市、柳川市、筑後市、大川市）のオーナーシップを引き出すステップとして、各自治体担当者を幹事へするなどの対策を協議した。</p>
<p>写真等</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>第1回協議会開催支援</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>コアメンバーと意見交換</p> </div> </div>

意見交換会の開催

<p>催事名</p>	<p>福岡筑後プラスチックリサイクルループ推進協議会意見交換会</p>
<p>目的</p>	<p>PF 活動団体と地域で協働するステークホルダーが集い、多様な視点による活発な議論を行う。</p>
<p>開催日時等</p>	<p>日時：令和3年11月17日（水）          会場：福岡県大木町          開催形態：対面+オンライン</p>
<p>概要</p>	<p>出席者人数：33名（会場参加者14名、オンライン参加者19名）</p> <p>主要メンバーは現地へ参集したが、コロナ禍のため、オンラインも併用して開催した。オンライン会議の設営、会議運営をEPおにて担当し、開催支援した。内容としては、大木町以外の構成自治体（みやま市・筑後市・大川市・柳川市）が新たに新幹事となり、紹介があった。          改めて、目指すべき方向性の説明もあり、関係者間で共有した。</p> <p>&lt;次第&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新幹事紹介（新幹事：みやま市・柳川市・筑後市・大川市）</li> <li>2. 主旨説明（九州地方環境事務所）</li> <li>3. 確認事項             <ul style="list-style-type: none"> <li>・協議会が目指す南筑後の将来像について（中村幹事）</li> </ul> </li> <li>4. 報告事項             <ul style="list-style-type: none"> <li>・経過報告及び今後の活動について（近藤幹事）</li> <li>・ホームページの開設について（藤山幹事）</li> <li>・認証制度（協議会のロゴ・ニックネーム）について（藤山幹事）</li> <li>・その他</li> </ul> </li> <li>5. 協議事項             <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自治体の課題抽出（各市町幹事）</li> <li>・PF事業成果物（マンダラ）について（高田幹事）</li> <li>・その他</li> </ul> </li> </ol>

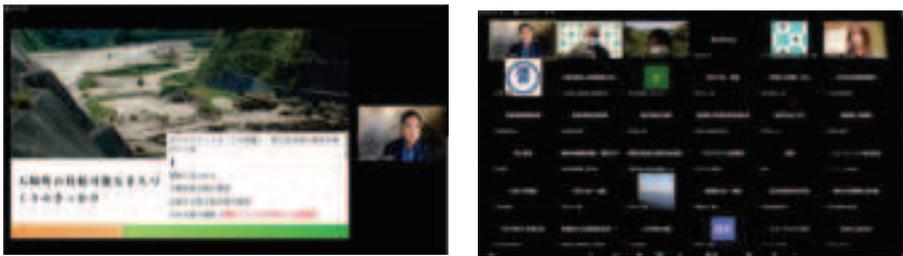
開催状況の 写真等	
団体との コンタクト	<p>令和3年</p> <p>5月26日(水) キックオフ発表資料コメント(メール・電話)</p> <p>6月16日(水) 全国事務局 WEB 相談会后、資料作成相談(電話)</p> <p>6月24日(木) マンダラ作成相談(メール・電話)</p> <p>7月1日(木) 福岡筑後 PRL 推進協議会開催支援(大木町役場)</p> <p>7月13日(火) 全国事務局 WEB 相談会参加促し終了後相談(電話)</p> <p>9月17日(金) 意見交換会開催について打合せ(大木町役場)</p> <p>9月24日(金) 九州大学近藤氏協議会運営打合せ(電話)</p> <p>10月26日(火) 南筑後地域自治体会議参加(大木町役場・YK クリーン)</p> <p>11月25日(木) 中間報告資料作成相談(メール・電話)</p>

### ③【みやざき SDGs プラットフォーム】(新規)

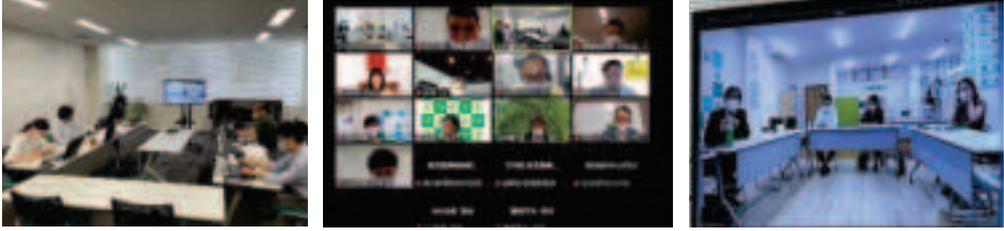
#### 概要

PF 活動 団体の特徴	<p>宮崎県内での SDGs の認知度向上と活動理念の浸透に取り組む。昨今の宮崎県内では、産業界や教育機関を中心に、SDGs への取組みの機運が高まっている。その機運をさらに加速させ、宮崎県内各地に、SDGs 活動登録団体・企業がそれぞれ SDGs に取り組んでいる姿を理想とし、課題解決や推進取組の相談を「みやざき SDGs プラットフォーム」で受付け、支援する体制づくりを目指している。</p>
環境整備 支援方針	<p>産学金労官各分野におけるステークホルダーの巻き込みが図れつつあることと、MSEC(県立高校のコンソーシアム)や JC(日本青年会議所)などの若者との連携が図れていることが強みである。</p> <p>一方で、発起人会においては、業界団体のトップが名を連ねていただいたが、宮崎県全域が活動地域となるため、エリアやテーマを絞った実務者レベルでの「実務者会議」の実現に向けてのフォローを行う。</p>

#### 企画連携等

概要	<p>プラットフォームの方向性を模索する中で、具体的な取組の足掛かりとしてテーマごとに開催された「作業部会」に同席することで、PF 活動団体の動きを把握した。</p> <p>また、南九州地域の SDGs 啓発に向けたフォーラム「南九州 SDGs 交流会」へ登壇いただくなど、連携を深めた。</p>
写真等	 <p style="text-align: center;">南九州 SDGs 交流会①                      南九州 SDGs 交流会②</p>

意見交換会の開催

<p>催事名</p>	<p>みやざきSDGsプラットフォーム意見交換会</p>
<p>目的</p>	<p>PF活動団体と地域で協働するステークホルダーが集い、多様な視点による活発な議論を行う。</p>
<p>開催日時等</p>	<p>日時：令和3年9月28日（火）14:00-16:00 会場：宮崎会場（まちなかカレッジ）、熊本会場（九州地方環境事務所）、各自 開催形態：オンライン</p>
<p>概要</p>	<p>出席者人数：22名（オンライン参加者22名） 9月に開催した九州地区連絡会での「マンダラ」（案）をブラッシュアップし、みやざきSDGsプラットフォームの「ありたい未来」についてSHに示し、方向性を共有した。同時に、3つの作業部会の進捗状況共有と、それぞれの課題について意見交換を行った。 全体の目指すべき方向性については、作業部会の取組を進める中で再検討することになった。</p> <p>&lt;次第&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. SDGs未来都市、マッチング、ジェンダー部会より進捗状況共有             <ol style="list-style-type: none"> <li>（1）課題の認識</li> <li>（2）今後どのように取り組むのか</li> <li>（3）質疑応答</li> </ol> </li> <li>2. 地域循環共生圏について 趣旨説明（九州地方環境事務所）</li> <li>3. 意見交換 「地域循環共生圏づくりについて」</li> </ol>
<p>開催状況の写真等</p>	
<p>団体との コンタクト</p>	<p>令和3年 5月11日（火） みやざきSDGsプラットフォームヒアリング（オンライン） 8月12日（木） みやざき事務局会議「提出物等について」（オンライン） 9月14日（火） みやざき意見交換会事前打ち合わせ（オンライン） 9月15日（水） 作業部会「ジェンダー」参加（オンライン） 9月17日（金） 作業部会「SDGs未来都市」参加（オンライン） 9月28日（火） みやざきSDGsプラットフォーム意見交換会（オンライン）</p> <p>令和4年 2月3日（木） 成果報告会に向けての事前打ち合わせ（オンライン）</p>

④【北九州環境ビジネス推進会（KICS）】（新規）

PF 活動 団体の特徴	北九州エコタウンの整備から 20 年以上が経ち、各リサイクル企業は事業の高度化に向けて個別に取組んできた。 昨今の脱炭素社会や脱プラスチックを含む循環経済に向けた潮流を踏まえ、「循環経済の概念図」を参考に「明日の北九州の環境産業ビジョン」の策定に向けて「北九州循環経済研究会」での議論を重ねている。
環境整備 支援方針	北九州循環経済研究会の取組を通して、「明日の北九州環境産業ビジョン」策定に賛同する協力・参加者が、60 団体超まで増えた。 その中で「社会循環」「自然循環」「エネルギーの地産地消」のテーマに沿った実務レベルでの役割分担やプロセスの見える化について支援していく。

意見交換会の開催

行事名	北九州環境ビジネス推進会意見交換会
目的	PF 活動団体と地域で協働するステークホルダーが集い、多様な視点による活発な議論を行うと同時に、「プロセスの見える化」について深堀する。
開催日時等	日時：令和 3 年 10 月 4 日（月） 15:00-16:30 会場：西日本総合展示場 301 会議室 302 会議室 開催形態：対面+オンライン
概要	出席者人数：44 名（会場参加者 27 名、オンライン参加者 17 名）  テーマ別の取組について、情報の共有化ならびに新たに取り組むべき課題の整理を行った。北九州循環経済研究会を重ねることで協力者が増え、自治体（北九州市）としても KICS が連携不可欠な存在であることが再認識された。 「プロセスの見える化」について、KICS 事務局打ち合わせでは「そもそも必要か」の議論もあったが、松本座長や郡嶋顧問から「プロセスの見える化」の必要性について積極的な言及があるなど、認識が共有された。  ＜次第＞ 1. 主旨説明 九州地方環境事務所 豊原悠作氏 2. 北九州環境ビジネス推進会 の取組内容 について <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会循環、自然循環、エネルギーの地産地消について</li> <li>・北九州環境推進ビジョンについて</li> <li>・さらに検討が必要な課題</li> <li>・その他</li> </ul> 3. 意見交換
開催状況の 写真等	 

団体との コンタクト	<p>北九州循環経済研究会の参加を通して、事業の状況を確認した。 また、PF 活動団体事務局との複数の意見交換会を通して、意思疎通を図った。</p> <p>4月 21 日（水）株式会社ウェルクリエイト訪問、ヒアリング 5月 26 日（水）北九州市環境局長 富高紳夫氏講演会（オンライン参加） 「北九州市のエネルギー戦略」</p> <p>6月 7 日（月）第 10 回北九州循環経済研究会（オンライン参加） ・地域循環共生圏事業報告、継続結果について ・循環経済に向けた企業・行政・市民による連携の糸口を探る</p> <p>7月 2 日（金）北九州環境ビジネス推進会中間報告会 （エコテクノ展内にて対面参加）</p> <p>8月 2 日（月）第 12 回北九州循環経済研究会（オンライン参加） 9月 7 日（火）KICS 意見交換会事前打合せ開催（オンライン） 10月 4 日（月）第 13 回北九州循環経済研究会（オンライン参加） ・資源循環分野でのブロックチェーン構想 ・自然循環 放置竹林問題解決と竹材利用の取組み</p> <p>2月 7 日（月）北九州循環経済研究会 最終報告会（オンライン参加） ・記念講演「循環経済と循環「型」経済」 同志社大学 名誉教授 郡嶋 孝氏 ・活動報告（社会循環、自然循環、再エネ 100%電力化、市民参加、廃熱利用と竹の再利用）</p>
---------------	---

#### ⑤【一般社団法人 MIT】（継続）

##### 概要

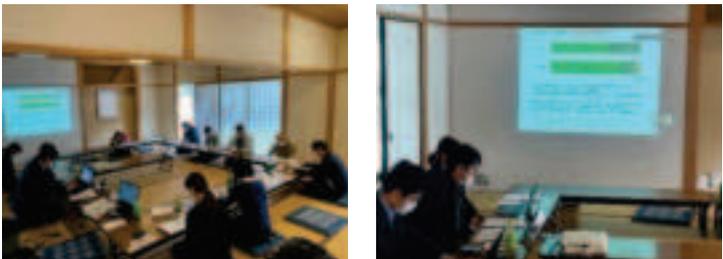
PF 活動 団体の特徴	<p>対馬の里地里山は、ツシヤママネコを頂点とする貴重な生態系を有する。その中でも、森林面積は約 9 割を占めている。</p> <p>対馬市は、森林資源の持続可能な利用による生態系の回復と、多様な森林関連のビジネスによる地域経済の活性化が両立できる島を目指している。</p> <p>PF 活動団体は、地域づくり活動経験者が設立し、島の総合計画策定の委託や子どもたちへの環境教育講師などを務め、地域での認知度・信用度も高く、地元住民と協力して地域づくりに取り組んでいる。</p>
環境整備 支援方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模林業を基軸とした事業化、体制づくりに向けた支援・助言</li> <li>・中期的な方向性を見据えた意見交換会の共同開催</li> <li>・ステークホルダーの選定助言</li> <li>・事業計画策定支援</li> </ul>

##### 先進事例共有

概要	<p>持続可能な仕組みづくりの一環で、「地域通貨」についての情報収集の相談があり、「モリ券」の取り扱いをしているNPO法人土佐の森救援隊の情報収集のため、伴走支援の経験のある四国 EPO との意見交換を実施した。</p> <p>また、「未来通貨」の取り扱いのある「宮古島市」との意見交換の場を九州地方環境事務所と協力の上設定し、オンライン意見交換を行った。</p>
----	--

写真等	 <p>宮古島市との情報交換</p>
-----	--

### 意見交換会

行事名	一般社団法人 MIT 意見交換会
目的	PF 活動団体と地域で協働するステークホルダーが集い、多様な視点による活発な議論を行うと同時に、「持続可能な島づくり」を担う運営団体についての議論も行う。
開催日時等	日時：令和3年10月20日（水）15:00-17:00 会場：対馬市交流センター3階和室（対馬市） 開催形態：対面+オンライン 出席者人数：20名（会場参加者13名、オンライン参加者7名）
概要	<p>地域の自治体関係者が一堂に会し、意見交換を行った。運営組織の必要性について確認した。また、組織の持続可能性のために、どのような維持管理を行うか、資金や人材などの課題整理を行った。</p> <p>&lt;次第&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 話題提供・論点整理・企画提案（MIT 環境整備1年目の取組について）</li> <li>2. 意見交換 <ul style="list-style-type: none"> <li>（1）対馬の森林の保全と利活用の最重要課題</li> <li>（2）上記の課題解決に向けた推進体制・役割分担</li> </ul> </li> <li>3. 総合討議 <ul style="list-style-type: none"> <li>（3）森づくりを横断的に推進組織の役割や必要性について</li> <li>（4）新たな組織の設立にむけた検討課題について</li> </ul> </li> </ol>
開催状況の写真等	

### カ、全国支援事務局等と連携した取組

#### ①アドバイザー委員会・作業部会・共有会・ブロック別共有会への参加

行事名	プラットフォーム形成アドバイザー委員会・作業部会
開催日等	5月12日（水）9:30-12:30 第1回共有会（オンライン） 7月29日（木）13:00-16:00 第1回アドバイザー委員会（オンライン）

	<p>9月10日(金) 9:30-12:30 第1回作業部会(オンライン)</p> <p>9月15日(水) 16:00-17:10 ブロック別共有会(オンライン)</p> <p>12月8日(水) 10:00-12:00 第2回作業部会(オンライン)</p> <p>13:00-15:00 第2回共有会(オンライン)</p> <p>2月15日(火) 10:00-12:00 第2回アドバイザー委員会(オンライン)</p> <p>3月9日(水) 10:00-12:00 第3回共有会(オンライン)</p>
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域循環共生圏づくり PF 事業の構造についての確認</li> <li>・各 EPO による環境整備支援の進捗共有</li> <li>・PF 事業環境整備支援における現状報告</li> <li>・各地方 EPO による環境整備支援の進捗共有</li> <li>・令和 2 年度 PF 事業の振り返り</li> <li>・環境整備支援を通じて EPO ネットとして目指す価値について</li> </ul> <p>九州の事例について報告を行い、委員や GEOC、各地方 EPO との意見交換を行った。また、各地方 EPO から取組状況の共有があり、環境整備支援での課題についての共有ができ、改善のヒントが得られた。</p>

## ②事業化支援団体への情報提供

行事名	鹿島市ラムサール条約推進協議会への情報提供・定例会参加
開催日等(場所)	<p>4月30日(金) 15:30-16:30 EPO 来所打合せ「事業化支援について」</p> <p>5月25日(火) 14:00-17:00 支援チームヒアリング(環境計画課)</p> <p>6月23日(水) 10:00-12:00 鹿島チーム打合せ(オンライン)</p> <p>7月9日(金) 14:00-17:00 鹿島チーム現地打ち合わせ(鹿島市役所)</p> <p>7月10日(土) 9:00-14:00 現地視察(棚田、干潟、道の駅他)</p> <p>8月24日(火) 13:00-15:00 鹿島モデルについて(オンライン)</p> <p>10月6日(水) 10:00-12:00 鹿島進捗会議(オンライン)</p> <p>12月7日(火) 16:00-17:00 鹿島定例会(オンライン)</p> <p>3月10日(木) 9:00-11:30 鹿島定例会、徳之島情報交換会(オンライン)</p>
概要	<p>支援チームの事務局(株式会社いであ)、専門家(柳原氏、幸福氏)の専門的知見から、事業促進のための助言、鹿島での進捗共有、改善点いつて意見交換を行った。</p> <p>また、里山未来拠点事業については、EPO より情報提供し、鹿島市より申請の後、採択となった。</p> <p>地域循環共生圏事業と並行して、鹿島市ラムサール条約推進室が中心に取り組み、里山保全の分野で、保全地域の調査など、相乗効果をもたらした。</p>

## ③沖縄・奄美支援事務局との情報交換

奄美群島・沖縄地域の PF 活動団体については、沖縄奄美自然環境事務所といであ株式会社沖縄支社が協力して環境整備支援を行い、適宜情報交換等を行った。

## (2) 森里川海推進ネットワーク形成会合の開催

### ●業務目標

環境（資源・課題）を切り口としたローカルSDGsの実現を目指し、関係者集め、関係者間の意識共有及びアイデア出し等の段階にある地域において、先進事例等の参照及び今後の取り組みの検討を行う場を設け、関係者間の連携を促す。

環境省では、地域の自然資源の活用や、それにつながる市民・企業レベルの取組へむけた普及啓発である「森里川海プロジェクト」を実施してきており、近年はこの取り組みを地域循環共生圏（ローカルSDGs）実現へつなげられるよう各地へ働きかけている。

今年度は以下の2つの会合により、「森里川海」の保全と活用に向けた地域プラットフォームのネットワーク化、環境政策の地域展開の橋渡し（課題認識の共有、地域実践での活用）を行った。

行事名	森里川海推進ネットワーク形成会合 出水市連携企画
目的	令和3年11月18日にラムサール条約湿地に登録された「出水ツルの越冬地」を推進する市役所のプロジェクトチームメンバーおよび協議会メンバーに向けて、佐賀県鹿島市の先行事例紹介とノウハウの共有、地域金融機関との連携促進の場を創出する。
開催日時等	日時：令和4年1月25日（火）13:30-15:30 会場：オンライン開催 開催形態：オンライン 主催：九州地方環境事務所、出水市 協力：九州地方環境パートナーシップオフィス
概要	<p>参加人数：28名</p> <p>プログラムでは、環境省の取り組み及び開催趣旨について、主催である九州地方環境事務所から説明を行った。</p> <p>続いて、今年度ラムサール条約登録湿地となった出水市から、登録に向けた取り組み内容について、紹介が行われた。</p> <p>次に、地域循環共生圏を推進するプラットフォームとして活動する、鹿島市から、ラムサールブランド、及び干潟保全基金の設立経緯について説明が行われた。</p> <p>意見交換のセッションではEPO九州が進行を行い、出水市のブランド化制度、解決したい地域課題について両地域の参加者間で活発な意見交換を実施した。</p> <p>&lt;次第&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>開会・趣旨説明 九州地方環境事務所 次長 泉 勇氣 氏 国立公園課 自然保護官 伊藤 百合香 氏</li> <li>出水市の取組説明 出水市ラムサール推進室 次長 橋元 邦和 氏</li> <li>事例紹介 鹿島市ラムサール条約推進室 室長補佐 江島 美央 氏</li> <li>意見交換</li> </ol>

開催状況の 写真等	  <p style="text-align: center;">写真提供：出水市</p>
--------------	--

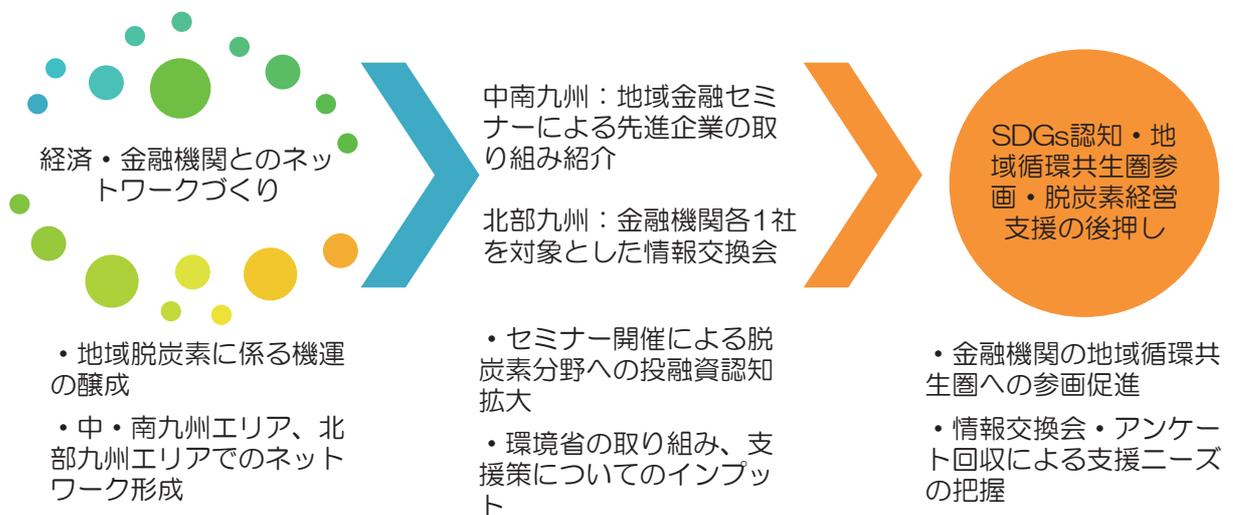
行事名	ローカルSDGs セミナー「里山の自然を活かした地域づくり」
目的	自然を活かした地域づくりを目指す地方自治体の方や、保全・自然体験活動等に取り組む民間企業・団体の方を対象に、里地里山に関する環境省の取り組みや、里山を活かした地域活性化に取り組む九州2地域の事例を紹介する。
開催日時等	日時：令和4年2月9日（水）10:30-12:00 開催形態：オンライン 主催：九州地方環境事務所 協力：九州地方環境パートナーシップオフィス
概要	<p>参加人数：32名</p> <p>里地・里山の自然は、農林業の営みや、人々の暮らしを通じて保たれており、様々な生き物の暮らす場所としてだけでなく、体験や観光の場として人々をつなぎ、地域に活気をもたらす場所として注目されている。</p> <p>開催協力を行った本セミナーでは、自然を活かした地域づくりを目指す地方自治体、保全・自然体験活動等に取り組む民間企業・団体を対象として実施した。</p> <p>まず九州地方環境事務所より趣旨説明が行われ、続いて環境省自然環境局自然環境計画課から、取り組みと事例紹介が行われた。</p> <p>次にグッドライフアワード受賞など、里山資源を利用した官民連携の先進的取り組みが行われている熊本県菊池市から活動紹介が行われた。</p> <p>また長崎県五島市の玉之浦町未来拠点協議会より、離島エコツーリズムとローカルSDGs 推進の取り組みについて事例紹介が行われた。</p> <p>&lt;次第&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会・趣旨説明 九州地方環境事務所 次長 泉 勇氣 氏 国立公園課 自然保護官 伊藤 百合香 氏</li> <li>2. 環境省の取組・事例紹介 環境省自然環境局 自然環境計画課 里地里山保全専門官 湯浅 和広 氏 自然環境計画課 企画係長 橋口 峻也 氏</li> <li>3. 取組紹介① 菊池市 企画振興課 集落・定住支援室 川上 篤 氏</li> <li>4. 取組紹介② 五島市 玉之浦町未来拠点協議会 会長 野澤 努 氏</li> <li>5. 質疑応答</li> </ol>

アンケート回答より	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に活動されている方々のお話を詳しく聞くことができ、大変参考になり、また勇気づけられた。</li> <li>・コーディネーターの存在が、地域に新しい風を起こしている良い成功事例だと受け取った。</li> <li>・社会の潮流を読むことや自発性が大切だということが分かった。</li> <li>・同じ離島であるので、大変参考になった。</li> </ul>
開催状況の写真等	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>写真提供：菊池市</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>写真提供：五島市</p> </div> </div>

### (3) 地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化事業

#### ●業務目標

地域循環共生圏構築に向け、地域金融機関や経済団体等のパートナーシップを形成する。昨年度実施した北九州地域と熊本地域での勉強会の枠組みを生かし、更なる連携強化を目指す。



#### ア、地域金融機関等と連携した情報交換会等の開催

##### ①地域金融機関向け脱炭素セミナー

催事名	地域の脱炭素化にリーチする地域金融セミナー
開催日時等	<p>日時：令和4年1月19日（水） 15:00-16:00</p> <p>会場：オンライン開催</p> <p>開催形態：対面とオンライン</p> <p>主催：九州地方環境事務所、九州経済産業局</p> <p>協力：九州地方環境パートナーシップオフィス</p>

<p>目的</p>	<p>2050年カーボンニュートラル、2030年までに温室効果ガスの46%を削減するという野心的な目標に向け、脱炭素の取り組みをあらゆる地域、あらゆる分野で推進していく必要がある。</p> <p>昨年度はESG金融に関する勉強会企画を通じて、同じ志をもつ事業者間のネットワーク構築の下地づくりを行った。今年度は地域金融機関への脱炭素分野への投融資の重要性についての認知拡大や政策動向、具体事例の共有を目的に、中・南九州金融機関を対象とした取引企業の脱炭素経営の促進を図るセミナーを開催する。</p>
<p>概要</p>	<p>出席者：地域金融機関 19社</p> <p>内容：地域金融機関の脱炭素に関する取組の認知拡大等の目的のため、経済界や金融機関での有識者・実践者を招き、国や地域の政策や支援内容、先進企業の事例について周知した。また、長崎大学の山口准教授を交えて登壇者との意見交換を行った。</p> <p>セミナー後のアンケートでは会全体の感想のほか、今後取り上げるべきテーマや産業分野についての回答も寄せられ、地域金融機関が地域企業の支援ニーズについて学びたいこと、特に観光業・製造業の支援に関心を寄せていることが明らかになった。</p> <p>&lt;次第&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会</li> <li>2. 講演 <ul style="list-style-type: none"> <li>「脱炭素政策の動向・脱炭素投資の意義」 九州地方環境事務所 次長 泉勇氣氏</li> <li>「地域企業の支援に向けて」 九州経済産業局 資源エネルギー環境課 係長 樋口一郎氏</li> <li>「脱炭素の鍵を握るESG地域金融」 三井住友信託銀行 サステナビリティチーフオフィサー 金子 司氏</li> <li>「地域金融機関の取り組み」 肥後銀行 経営企画部サステナビリティ推進室 室長 大野 隆氏</li> </ul> </li> <li>3. 意見交換 講演者とファシリテーターによる意見交換 ファシリテーター 長崎大学経済学部准教授 山口 純哉氏</li> <li>4. 閉会</li> </ol>
<p>アンケート回答より</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漠然とした理解をしておりましたが、具体例に触れたことで、当組合における事例へと結びつけられるよう制度設計等検討したいと思いました。</li> <li>・各パネリストも示唆に富んでおり、とても勉強になりました。規模の大きいものが多く、実行は大変だと思う事もありましたが、取り組みたいと思う事もありました。</li> <li>・金融機関が直接声掛けしてもなかなか地域に浸透させるのは難しいですが、金融機関を通して影響力ある企業との接点を作ると良いのではないかと思います。</li> </ul>

②地域金融機関情報交換会

行事名	地域循環共生圏パートナーシップ基盤強化地域金融機関脱炭素意見交換会
主催等	主催 九州地方環境事務所 協力：九州地方環境パートナーシップオフィス
目的	地域金融機関の脱炭素化の取り組みをサポートするため、国・地域の最新動向や脱炭素化への取り組み方、意義等について説明し、意見交換を行う。
第1回 概要	<p>日時：令和4年3月15日（火） 10:30-12:00 開催形態：オンライン開催 参加者：9名 内容：地域金融機関である福岡ひびき信用金庫を招き、九州環境地方事務所豊原氏から国・地域の最新動向や環境省の支援策について説明したうえで、地球環境戦略研究機関（IGES）を交えた意見交換を行った。</p> <p>&lt;次第&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会 九州地方環境事務所 豊原悠作氏</li> <li>2. 話題提供 現在の脱炭素に関する動向等 九州地方環境事務所 豊原悠作氏 国・地域の支援メニューや先行事例を説明</li> <li>3. 意見交換 環境省の支援メニュー等について</li> <li>4. 総括 九州地方環境事務所 泉勇氣次長</li> <li>5. 閉会</li> </ol>
第2回 概要	<p>日時：令和4年3月17日（木） 10:30-12:00 開催形態：オンライン開催 参加者：7名 内容：地域金融機関である十八親和銀行を招き、九州環境地方事務所豊原氏から国・地域の最新動向や環境省の支援策について説明したうえで、十八親和銀行の現在の取組や金融機関職員へのESG周知・啓発策について協議した。</p> <p>&lt;次第&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会 九州地方環境事務所 豊原悠作氏</li> <li>2. 話題提供 現在の脱炭素に関する動向等 九州地方環境事務所 中原夢楽咲氏 中原氏より国・地域の支援メニューや先行事例を説明</li> <li>3. 意見交換 地域脱炭素化支援に向けた場づくり等について</li> <li>4. 総括 九州地方環境事務所 泉勇氣次長</li> <li>5. 閉会</li> </ol>
写真	

③佐賀商工会議所青年部連合会研修会

行事名	佐賀県商工会議所青年部 会員大会伊万里大会 佐賀の未来を共創・再構築～ローカル SDGs を活かした未来構想～
開催日時等	日時：令和4年1月15日（土） 14:00-16:30 会場：ララシャンズ迎賓館 伊万里 開催形態：対面とオンライン 主催：佐賀商工会議所青年部（佐賀 YEG） 後援：佐賀県、伊万里市、佐賀県商工会議所連合会、伊万里商工会議所 協力：九州地方環境事務所、九州地方環境パートナーシップオフィス
目的	佐賀県商工会議所青年部に所属する若手の事業者を対象に、地域脱炭素化の実現とローカル SDGs の達成に向けた取り組みについて話題を提供し、地域コミュニティでの SDGs 達成を啓発する。
概要	<p>参加者：70社（現地参加及びオンライン）          内容：佐賀県商工会議所の若手事業者を対象に、SDGs に取り組み意義や当事者意識の醸成などを目的として講演会および会員参加のワークショップと意見交換を行った。          九州環境事務所の豊原氏講演では地域脱炭素化の重要性と地域循環共生圏の理念について語られ、地域で脱炭素や SDGs に取り組むことの意義を周知した。          佐賀 SDGs 官民連携円卓フォーラム大野博之幹事長講演では、より身近な地域の中小企業による SDGs の取組やビジネス視点での SDGs について取り上げ、参加者にとってより当事者性の高い情報が共有された。          ワークショップでは九州地方環境パートナーシップオフィスのファシリテートのもと、今回の講演を受けて考えたこと、自社で脱炭素や SDGs に向けて取り組めることについて各地域の商工会議所ごとに意見を交換した。</p> <p>&lt;次第&gt;          1. 開会 佐賀商工会議所青年部連合会 上野泰三会長          2. 講演 「脱炭素化に向けたローカル SDGs の活用」          九州地方環境事務所 豊原悠作氏          「中小企業が今取り組む SDGs」          佐賀 SDGs 官民連携円卓フォーラム 大野博之幹事長          3. 意見交換 ファシリテーター 九州環境パートナーシップオフィス 澤          4. 閉会</p>
写真	

#### ④打合せなどの実施状況

打合せ	10月13日 企画打合せ 地方事務所、EPOにて企画打合せ
	12月7日 企画打合せ 地方事務所、EPOにて企画打合せ
	1月5日 企画打合せ 地方事務所、EPOにて企画打合せ
	1月13日 ファシリテーター打合せ。第1回企画内の意見交換について協議
全国事務局 情報交換会	11月30日 基盤強化事業情報交換セミナー・意見交換（オンライン）
	1月26日 基盤強化事業情報交換セミナー・意見交換（オンライン）
全国事務局 検討会議	9月22日 第1回基盤強化事業検討会議（オンライン）
	2月8日 第2回基盤強化事業検討会議（オンライン）

#### イ、成果・検討事項

獲得された 成果	<p>主に地域金融機関を対象とした地域脱炭素に関するセミナーと情報交換会の開催により、地域金融機関の地域循環共生圏への参画を促進する機会を創造した。特に北部九州エリアを対象とした2度の情報交換会においては、参加金融機関を1社ずつに絞ったことにより、本企画の需要についてより濃密で率直な意見を得ることができた。</p> <p>○地域金融機関との関係基盤構築による地域循環共生圏の推進活性化 金融機関に脱炭素に関する情報とともに地域循環共生圏の理念についてのインプットを行うことで、プラットフォーム事業に金融機関の参画を促すフックを創出した。</p> <p>○地域金融機関と地域主体をつなぐポイントの整理 意見交換会、セミナー後のアンケートを通じ、地域金融機関が脱炭素社会をより主体的に捉えられる関心のポイントが整理された。</p> <p>○脱炭素社会構築のパートナーとしての金融機関のネットワーク 相互の情報交換の機会創出によって、脱炭素文脈での地域金融機関同士のネットワーク構築が進んだ。</p> <p>○パートナーシップ基盤強化事業企画に対するニーズの把握 地域金融脱炭素セミナーによるアンケート回収と北部九州エリアを対象とした情報交換会において、地域金融機関が本企画に対して期待する内容や、各社のクライアントに対して脱炭素化を推進するうえで必要なインプットについて次年度の取り組みにつながる意見を収集した。</p>
-------------	---

#### 地域金融機関による地域金融・経済を巻き込んだ展開の流れ

